

## 未来へ輝き発信

### 東京モーターショー見聞録

日米欧の先進国市場が成熟期を迎える一方、新興国市場は今後モータリゼーションの波が本格的に押し寄せる様相だ。新興国で戦える低価格小型車、その部品の開発は、「日の丸自動車軍団」共通の課題だ。

スズキは次世代の世界戦略小型車「レジーナ」を初披露。曲線的な構造を採用した軽量プラットフォーム(車台)を開発。車両重量を730キログラムに抑え、部品点数を大幅に削減し低価格を実現する。発売時期は未定だが、スズキの海外市場の切り込み隊長を担う。

### 新興国にらんだコスト削減

100万円以下

三菱自動車は来年3月からタイで生産する世界戦略車「ミラージュ」を出品。「部品1つ1つに至るまで小型・軽量化にこだわりのめぎ、低価格と低燃費を両立させた」(益子修社長)。最低価格を100万円

## つかめ押し寄せる大波



協和工業が開発したステアリング関連部品(矢印の表示がある部分)

## 小型、低価格な部品開発 強まる要求に手休めず

円以内に抑える方針だ。自動車メーカーの新興国対応にあわせ、部品メーカーもコスト削減を追求している。

デンソーは2012年は部品メーカーの永遠の課題。次から次へと手

産コストを09年比半減させる。加藤宣明社長は「東南アジア市場ではコストダウン要求がますます強まる。コストダウンは部品メーカーの永遠の課題。次から次へと手」

東海ゴム工業は、エンジンの微妙な生産量調整やシンカパーや電気モーターに使用される新開発の発泡ウレタン材を開発。従来のシリコンゴム製に比べ、材料費を抑制。5割程度の生産コスト削減が可能という。カパーに使用される鉄と軽量で安価な発泡ウレタンと組み合わせることで、放熱のコストパフォーマンスを高める。

新興国では、コスト削減に加え舗装が十分に進んでいない路面を安定させること、縦断機能も必要となる。

### 生産時間を短縮

化学系自動車部品メーカーのアイシン化工(本社豊田市)は、超微細(ナノ)技術を活用したさびを防ぐ防錆(ぼうせい)塗料を披露。ナノレベルで顔料や添加材を混ぜあわせることで、高品質な塗料を提案する。本社工場の塗料工程に、塗

プレス部品メーカーの協和工業(本社大府市)は、「シャフト」と「結合部」からなる新しいステアリング関連部品を開発した。車体衝突時にのみ伸縮する他社製品に比べ、微振動でも常時伸縮する冷間鍛造部品を披露した。部品結合部分に特殊なコーティング材を塗布。安定操縦を実現させる。